

第5回 円山川流域懇談会（令和7年度開催） 議事骨子

日 時： 令和8年2月16日(月)14時00分から16時00分
場 所： 円山川防災センター 2階 会議室

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - ・河川整備計画に基づく進捗点検結果 [資料2]
4. 報告
 - ・気候変動を踏まえた計画の見直し及び流域懇談会の今後の予定 [資料3]
5. 閉会

■審議内容

1) 河川整備計画に基づく進捗点検結果(資料2)

進捗点検に関して河川管理者より資料に基づいて説明があり、以下のような意見があった。

○治水、利水について

【意見】日高地区について未整備が6%残っているのは墓地部分が未整備ということか。

【回答】墓地部分の用地買収ができておらず、その一部が堤防敷に掛かるため、堤防は暫定整備となっている。

【意見】鶴岡地区の買収面積に対する整備率はどのくらいか。今後も用地買収が済んだところから整備を行っていくのか。

【回答】用地取得の同意が得られたところから随時買収を行っている。用地買収がまとまってできたところから堤防整備を行っている。

【意見】津波対策の図の凡例には対策済の黒色が載っているが、どこになるのか。

【回答】対策実施済はない。なお、桃島樋門は津波に対して対策が不要のため青色の対策検討済で対策不要としている。

【意見】日高地区の墓地は移転するというので決まっていたのではないか。

【回答】移転する方向で豊岡市と調整している。

【意見】瀬戸・津居山地区の上流側は築堤しないのか。安心安全な生活道路の確保ということを忘れていただきたい。

【回答】現在の計画では図に示した範囲と思っているが今後検討、設計する中で伸ばす必要があるか整理する。

【意見】目標流量の達成延長について、97.1%の達成率となっているが、23号台風と同じ状況ではかなり安心してよいと言えるのか。当時浸水した今森地区や江本地区では住宅化が進んでいるが、避難の対策もしっかりしないといけないのではないか。

【回答】河川整備計画に基づいて実施されている整備事業は、円山川、奈佐川、出石川の国管理区間に関して平成16年台風23号の出水を堤防内で流す対策であり、内水までは対象としていない。また、軟弱地盤のため堤防高はHWLプラス余盛りの50cmと基準の余裕高がない状態のため、十分安全かと言われると必ずしもそうではない。そのため、避難等のソフト対策も組み合わせていく必要があり、維持管理と地域連携の中で取り組んでいる。

【意見】出石川合流点までの円山川掘削をさらに行うべきである。

【意見】この3年間で大きな出水はどのくらいあったのか。

【回答】令和6年度、7年度は、氾濫危険水位を超える出水はなかった。令和5年8月に台風による出水により避難判断水位を超えた。鶴岡地区、日置地区では堤防整備を行っている途中であり、大型土のうを用いた簡易な浸水対策を取ってはいたが、家屋浸水が生じた。

【意見】それは外水による浸水か。

【回答】堤防ができていないので外水による浸水である。

○環境について

【意見】蓼川井堰の魚道の効果はどのようなものか。連続性を保つための魚道の改修の方向性はどうかしているのか。

【回答】モニタリング調査や聞き込みにより魚が沢山上がってくるようになってきていることを確認している。

【意見】オイルによる水質事故が多いように思われるが、地域的な注意点や防止目標はあるのか。

【意見】鉄板を入れてもらっている。大雨や台風時に鉄板を倒せば上流部の汚濁やヘドロが流れるようになっていて、台風前は樋門を閉めることによって農業用水に異物が入らないようにしてもらっている。

【意見】連続性確保についての許可工作物への助言は具体的に何をしているのか。

【回答】カケヒダ井堰について豊岡市で考えられている改築の内容に対して助言を行った。

【意見】助言された内容が現実反映されているかが課題である。是非、対応してもらえればと思う。対応されたのであればここに内容を記載してほしい。

【意見】湿地の再生について、施策の概要に「生息・再生産の場として」との言葉があるが、面積だけ湿地を作っても、こういった機能がなければ意味がない。水辺の国勢調査のデータではモニタリングの中で稚魚や成魚など再生産しているかどうかを評価して示すべき。

質問だが、一つ目は、魚道の話で、進んでいないのであれば目標に掲げる意味がないのではないかと思うので、今後の進捗、計画について教えていただきたい。2つ目は、モニタリング調査結果では継続してイトヨを示しているが、毎年、1個体、2個体確認されているからと言って意味があるのかと感じた。迷って入ってきただけかもしれない。イトヨの繁殖していることを確認する調査が必要ではないか。

【意見】一つ目の質問については、環境に関しては自然再生推進委員会のほうで議論されており、その内容が進捗点検の進捗表に適切に表現されているかがポイントである。イトヨに関しても自然再生推進委員会の作業部会で行っているのだから、事務局からコメントを頂きたい。

【回答】湿地について種数だけしか整理できていないことやイトヨに関しても分析、評価不足と思われる。自然再生推進委員会で整理しているデータを分析して提示していきたい。

【意見】上下流の連続性の改善について、5施設のうち1施設の達成となっているが、整備計画の中で5施設が達成できなくてもよしとするのか。

【回答】引き続き助言をすろとしか言えない状況である。

【意見】解決策が見つかるかどうかというところが課題として残ってしまうのではないかと思う。

【意見】理解はしたが、現実的なところで目標設定したほうが良いのではないかと思う。

【意見】フジバカマのシンポジウムを昨年円山川で実施していただいたが、保全を進めているのは円山川と加古川ぐらいなので今後も進めてほしい。なお、フジバカマから病気が出ているので、きちんと対応された方がよい。

もう一点、堤防の管理について、利用なども考えておられるが、堤防の目標植生を考えたほうが良いのではないかと思う。チガヤ群落に移行されるように管理されればよいのではないかと思った。

【意見】魚類など水中に関心の向く傾向が否めないが、河川敷について、ヨシ原やヤナギ林、草地など、陸生の全容も次の計画ではもう少し丁寧に見ていけるようになれば良いと思う。景観的にも良いし、野鳥など動植物がたくさんいるので、川全体を見ていくと良いと思う

また、地域との連携というか避難の仕方など地域がソフト面で対策を立てられるように細やかなことができればよいと思う。

○維持管理、地域連携について

【意見】長寿命化計画においては、遠隔操作化や遠隔監視となってくると対象の機器がそういったことに反映されていかないといけないのではないと思うが、対応している数などどのように対応できているかを見えるようにすることが必要と感じる。

【意見】巡視について、UAV、ドローンの活用を進め、省力化を図ることも重要だと思う。

【意見】河川の点検に関して流域住民の方からの意見や愛護関係組織からの意見はあるのか。

【回答】円山川、奈佐川、出石川では河川愛護モニターという形で4名の方に委嘱をして普段から川を見ていただいて気づいた点を1か月に一回報告していただいている。不法投棄の報告が多く、すぐに回収するといった取組をしている。

【意見】農村部では各種の懇談会などで連携して河川の愛護についての意見を集めながら、事業が進展すればよいと思う。

【意見】危機管理対策ということで、地域住民や自治体との連携がなされており、資料の表の中には地域防災マップづくりワークショップとあるが、どういう活動をされているのか。また、これをされるきっかけは地域から要望が上がってくるのか、国からアプローチするのか。

【回答】ワークショップに関しては豊岡河川国道事務所と豊岡市で一緒に声掛けをしている。今年度に関しては神美地区でワークショップを行っており、洪水や土砂災害が発生した場合の避難行動について、マイ避難カードを活用して議論していただいている。

2) 気候変動を踏まえた計画の見直し及び流域懇談会の今後の予定について（資料3）

気候変動を踏まえた計画の見直し及び流域懇談会の今後の予定について、河川管理者から資料に基づいて説明があり、以下のような意見があった。

【意見】現計画が策定されて12年ということで、この間に流域治水ということがかなり浸透してきた。

流域総合水管理ということも現実的になってきていることも踏まえて、基本方針の見直しがなされている。委員の皆様には、事務局が新たな河川整備の審議をお願いするということになるかと思う。

【意見】バーチャートで進捗を示してもらったが、手つかずのところもあるので課題をクリアするように河川管理者には努力を重ねていただきたい。

以上